

5. 学生からの地域貢献活動実施報告

(1) 柏原まちづくりプロジェクト

皆さまこんにちは。私たちは関西学院大学総合政策学部3回生と4回生で構成しております柏原まちづくりプロジェクトと申します。本日はよろしくお願ひします。

こちらが本日の発表内容です。まず初めに、私岩本が関学と柏原のこれまでの関わりと私たちの自己紹介、続いて柏原の概要、柏原が抱える課題を紹介し、それに続いて永吉、谷口、高田より今年の活動を踏まえての提案を説明させていただきます。

まず初めに、関学と柏原の関わりについてですが、丹波地域で大学と地域が活動するようになった背景として、地域のニーズと大学のニーズがマッチしたことが挙げられます。丹波地域には大学がないということで、地域の側からしても大学生の若い力や大学で学ぶ専門的な知識が必要だということ、また大学側としてもプロジェクトベースドラニングという指導の導入により現場指向、現場で活動する授業形態が導入されたことから、大学としても地域に入るというニーズが得られたことが背景にあります。

関西学院大学としては2009年から活動を開始しました。当時は都市政策演習という2回生だけで1年間まちづくりに関わるという構成で授業をスタートしましたが、その活動の中で課題が発生しました。その課題とは、1年間の枠内では活動が限られてしまうということです。その課題を克服する上で、今私たちが支援を受けている学生等による地域貢献活動推進事業という形で援助を頂いて、いまでは3回生、4回生、また大学院生も継続的に柏原地区に入ることでまちづくりを継続させているという状況です。私たちは現在3回生、4回生が有志で活動させていただいております。中には去年の都市政策演習で活動していた人や、今年から参加した人もいます。3回生、4回生が有志で引き続いて活動することで、柏原についてより深く知ることができたり、地域の側からすれば若者とのつながりをより強固なものにできるというメリットがあると考えられます。こちらは2009年当時から2013年までの5年間の活動をまとめたものです。2009年と2010年は地域の方との交流を深めること、3年目以降は具体的な成果物を出すことをメインのコンセプトとして活動してきました。その中の一つの例として、去年の活動では交通に関する歩車共存というコンセプトを提案させていただきました。

続いて柏原町の概要を説明いたします。まず丹波市全体から説明します。丹波市は大阪駅から柏原駅まで電車で約2時間の距離に位置しており、通勤通学圏としては非常に遠い位置にあります。2004年に旧6町が合併して丹波市になりました。面積は兵庫県内で豊岡市、宍粟市、神戸市、姫路市に次ぐ県内5番目の大きさで、豊かな自然と歴史的に価値がある建物を多く持つ地域です。柏原町の歴史、文化、芸能ですが、元々は織田家の城下町だったということで、歴史的陣家など史跡も数多く残されています。初代柏原藩主は織田信長の実弟であった織田信包ということから、歴史が進展し、近年になると県や国の重要な機関が柏原町にも配置されました。そして現代に至り、現代が抱える問題としては主に人口減少が挙げられます。この図を見てもらうと分かりますが、これは平成22年の国勢調査を基に作成したグラフで上が丹波市、下が柏原町を表しています。柏原町自体は人口が増えたり減ったりという状況ですが、丹波市自体の人口減少が激しく、長期的には必ず人口が減少すると考えられます。このような現状を踏まえて、人口減少や回遊性がないことから、中心市街地が衰退していると言えます。また、その中心市街地の衰退の結果として、空き駐車場が増えているということも挙げられます。そこで私たちが人口減少について着目したのが、居住人口と交流人口という概念です。居住人口の減少というものは避けられないため、観光客等の交流人口へのアプローチが有効と考えて、そういった提案をしようと考えました。柏原町内で行われている取組としては今も行われているハピネスケット、2月に行われる厄神祭や10月に行われる織田祭などがあります。オートクラフトフェスティバルは柏原町内で行われるのですが、中心市街地からは少し離れた場所で行われています。そこで課題として挙げられるのが、「中心市街地の中で行わ

れているイベントでも回遊性がないためにその場に留まってしまい、中心市街地のほかの店には人が流れてこない。」「アートクラフトフェスティバルなど中心市街地から外れた場所で行われているイベントでは、中心市街地まで足を運んでくれない。」という課題があります。さらにもう1つの課題として、通過交通が多いことが以前から挙げられていました。通過交通が多い通りに歩行者が集中するということが危険であること、イベント時に歩行者が混在していること、歩道が少なく道幅が狭いことなどが交通面での危険性として挙げられています。こちらのグラフは私たちが交通量調査を行って算出したものです。AからHというオレンジの動線がありますが、この動線が最も通過交通の多い結果となりました。そこで見えてきた課題を踏まえて、永吉君、谷口君、高田君から今年の活動を踏まえた提案を行います。

ここからは私谷口がこれらの問題に対して出した提案について説明させていただきます。まず、今回の私たちのコンセプトを「柏原 Meets Culture」としています。柏原は今現在、これまでも様々な歴史を持っていて、非常に文化的な街ですが、今回はそれを活かして、文化的な街ということを全面に押し出して柏原の中心市街地をさらに魅力のある地域にして回遊性を高めていこう、柏原の今ある景観を活かして、それに調和したものを使って回遊性を高めていこうということを第1の提案とさせていただきます。2つ目ですが、あちらの地図の黄色の部分にあるように、現在柏原にはあまり使われていない駐車スペースがたくさんあります。そこで、これらを利用することで、立ち寄りやすい場所を作り、新たな人の流れを作ろうというのが第2の提案です。

まず第1の提案の紐絵アートについてですが、紐絵アートというのはアーティストのいしかわすばるさんという方が提案したアートです。これは実際アーティストの方が作っていますが、こちらの画面を見ても分かるように、このように僕たち素人でも簡単に作ることができます。動線を作りたい壁面にこれらのアートを設置することによって、動線を作り出していきたいと考えております。第2の提案として駐車場の活用というものがありましたが、駐車場を活用してこのような柏原の長屋をイメージした建物を作ることに動線を作りたいと考えています。紐絵アートを実際誰が作るのかについてですが、これは素人でも作れるものなので、これは1つの例ですが、今開催されておりますハピネスマーケットにブースを出店することによって紐絵を作るイベントを開催し、それで翌月のハピネスマーケットの際には実際に設置して、実際に動線ができるかどうかを実験してみたりすることもできます。次に第2の提案にある長屋をモチーフにした建物を作ることによって、どのような動線ができるかということを高田君から説明してもらいます。

長屋もハード面での提案になってしまうのですが、まず駐車場が広いということについて、その左の地図を見ていただくと分かると思いますが、黄色の地点が駐車場になっているところです。現在人口が減少している中でこれだけの駐車場が必要なのか。基本的にハピネスマーケットがあるときは利用者も多いのですが、普段の生活でどのように活かしていくのか。活かしていくことが大事ではないかということでこの提案をさせていただこうと思います。長屋門というのが柏原にありまして、それをデザインの基として、中身は長屋のような形の、簡単に言えばコミュニティスペースのような空間を作りたいと考えております。今回私たちが提案させていただくのは左の地図の青くなっている部分の駐車場です。現在公用車が10台ほど停まっていて、その前の柏原自治会館駐車場もあまり使われていないという状況になっているので、公用車を全て自治会館の駐車場に移してしまっ、こちらの駐車場を有効活用できればと考えております。その間に挟まれた赤く着色している道ですが、その道を活性化させたいと考えています。なぜこの道なのかと言いますと、まず中島大祥堂というケーキ屋さんが今作られているということ。大手会館という結婚式会場、何に使われるかまだしっかり決まっていなみたいですけど、そういったものがその右上のところの赤い字で書いている部分でできるということで、人通りが増えるのではないかと私たちは考えました。このため、その右側で示させてもらったオレンジの動線のところは車の通過交通が多いということで、歩行者をその地図の左側の赤い部分に通してしまうためにはその道自体を活性化させればいいのかと私たちは考えました。これがデザインの提案です。長屋風にしまして、下が先ほど示させてもらった左の道沿いの方になっていまして、こんな感じで左側がイベントスペース、図書スペース、キッチン、CAFE&BAR、右側がコミュニティスペースになっています。次にその機能について説明してい

ます。こちらがデザイン案ですが、このように左側が先ほど示させてもらったイベントスペースやカフェとなっております。右側がコミュニティスペース、癒やしの場、くつろぎの空間を構成しております。まずこのカフェ&バーのスペースの機能についてですが、柏原のまさゆめさかゆめさんとか新しくできる中島大祥堂さんのカフェのデザートとかケーキとかそういうものを置くことにより、ハピネスマーケットほか外部から来た人に食べてもらい、地域の魅力を知ってもらう広報的役割を担ってくれるのではないかと考えております。柏原の中心市街地に居酒屋などがあまりないということを柏原の出身である山本君に聞きまして、こういうところで地元の方々も居酒屋として使っていただいたりして、コミュニティスペースで交流とかできれば地域間のつながりも強くなるのではと考えております。こちらのキッチンスペースですが、こちらはハピネスマーケット時の特別出店場所としても面白いと思いますし、普段は地域の方たちが机を借りて使えるようにしてパーティーを開いたりとかできたらいいのでは、こういうことでも地域間の交流は活発化するのではと考えております。また、地元の野菜を使った食イベントなどもキッチン設備を常備しておくことによってできればいいと思います。こちらはブックスペースということで、簡単に言えば本棚、本を置いてしまおうということです。ご存じのように柏原の電車の本数がかなり少ないということがあり、私たちも一度電車を逃したことがあり、時間潰す手段がないということを感じたのでこういう本が簡単に読めるようなスペースと畳の空間があることで、特に学生たちが待ち時間留まれるような場所になれば良いと思い提案させていただきました。こちらのカーブの部分で学生さん、特に高校生の方たちで遠くから来ている人は親御さんの迎えを待たれているとのことですが、ここで待っていると危ないということがヒアリングの結果で表れました。こういう学生の方でも使いやすい空間を提供してあげてそちらで待っていただき、自治会館前の駐車場を簡単なロータリーのようなものにするので、迎えの車をここに回してもらうことができるので、先ほどの危険性も軽減できるのではないかなと考えております。もう一つはフリースペースということで、ここは完全に空いた空間にして、イベント時などに多様な用途に合わせて使用できるような空間が良いのではと考えております。ゲストハウスとしての使用も可能ということで、これは柏原に留まる手段がないということが、これもヒアリングの結果からなのですが、やはり柏原に来た人がいても篠山の方に泊ってしまうという方が多いので、泊まる場所があるということは長く留まってもらう上でも大事なのではと考えております。こちらの様々な活動拠点としてというのは先ほど挙げさせてもらったことと同じです。こちら右側全体がリラクシングスペースということで畳の空間を作らせていただきました。読書ができたりカフェとかバーの飲食もできるようになっています。襖で空間を区切っているので用途に合わせて部屋の大きさを変えたりすることができるので、色々なイベントにも対応できるのではと思っています。縁側にも庭園などを整備していただいたら落ち着いた空間になるのではと思っています。これは展望なのですが、紐絵アートによって回遊性を創出することにより、あちらの右側の図を見ていただいたら分かるのですが、黒い道の部分に紐絵アートを設置して柏原の店に行っていたらこうという動線を作ります。そこで今挙げさせてもらいました長屋型の集客施設を作ることによって、地域間のコミュニティとか柏原の広報というものを作りたいと思います。そういったプロセスを踏んだ上で文化的で魅力的な、魅力のあるまちを作れるのではと私たちは考えました。以上で私たちの発表を終わります。ご静聴ありがとうございました。

《柏原まちづくりプロジェクト 発表資料》



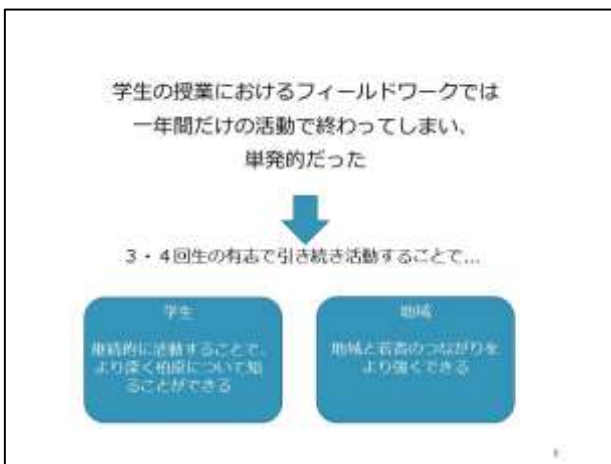
本日の発表内容

- はじめに（自己紹介）
- 柏原の概要
- 柏原が抱える課題
- 提案
- 質疑応答



関学×柏原

- 地域のニーズと大学のニーズがマッチ
 - 若い大学生を地域活性の起爆剤にしたい
 - フィールドワークの場がほしい
- 2009年より活動
- 現在は総合政策学部と法学部



年度	主な活動項目	主な成果物
2009	まちあるき 市民・高校生へのWS 資金調達 関学カフェ	観光マップ 街歩き模型 活性化提案書
2010	まちあるき KJ法による町の魅力分析 大平会館活用検討 武者行列参加 はじめてのおつかいイベン ト 関学カフェ	観光資源マップ 大手会館模型 活性化提案書
2011	まちあるき 店舗のアレンジ マップ制作WS 緑道祭り参加 落語カフェ	観光バスター Tシャツデザイン 観光パンフレット 観光しりとり 旗手を使ったスloop 活性化提案書
2012	まちあるき KJ法による町の魅力分析 異文化交流WS 体験インタビュー 関学カフェ アートワークショップ参加	観光パンフレットの新しい由マップ まちづくり絵巻 駅前設置観光地図 活動報告書
2013	まちあるき 旧柏原町役場活用案検討 交通整理会・駐車場調査 コミュニケーションスペース 調査 新書店アンケート 関学カフェ ハピネスマーケットへの出 店 アートワークショップ＆ステッ ル参加 店舗立地状況調査	巨文すごろい再演 丹波の100年大空パノラマ 旧柏原町役場活用案提案 歩行者空間化提案

交通に関する今年の提案

- ボンエルフなどで交通自体を排除することで歩車共存を図る。
- 歩行者の回遊性を強化する
= 歩車共存の政策



柏原の概要

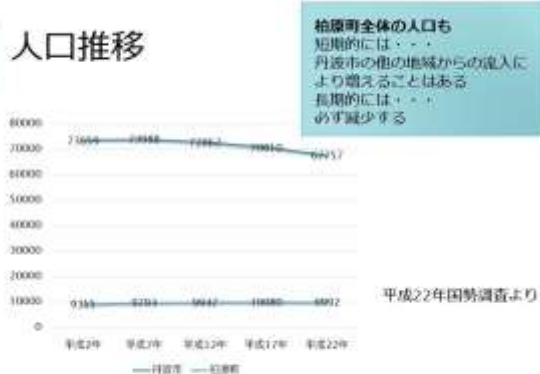
丹波市の地勢・自然・気候



柏原町の歴史・文化芸能・人物

- 織田家が開いた柏原藩の城下町として栄え、陣屋などの史跡も残されている。
- 近代以降も丹波地方の中心として、栄えた。
- 他にも....
- 八幡神社
- 田捨女

人口推移



現状

- 中心市街地の衰退
- 人口減少
- 回遊性がない
- 空き駐車場が多い
- あまり利用されていない箇所が多い

居住人口と交流人口

避けられない人口減少の中まちを維持・活性化していくためには・・・

交流人口（特に観光客）へのアプローチが重要

出生率が上昇しないまま居住人口の維持・増加を図ることは、都市圏での人口の奪い合いであり無意味



14

柏原で行われている取り組み

ハピネスマーケット



アートクラフトフェスティバル



厄祇祭



福田まつりとつまいもんフェスタ

15



柏原が抱える課題

16

課題01

集客性のあるイベントをしているが・・・

中心市街地を訪れても目撃性がない



中心市街地の中まで足を運んでくれない



17

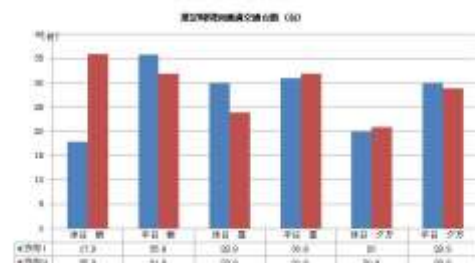
課題02

交通面の危険性

- 通過交通が多い通りに歩行者が集中
- イベント時に歩車の混在
- 歩道が少なく道幅が狭い

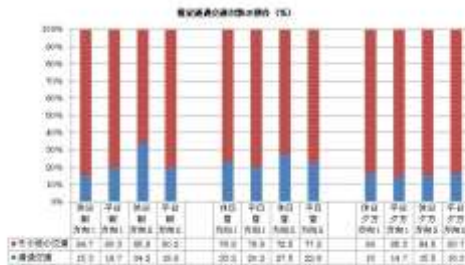
18

交通量調査01



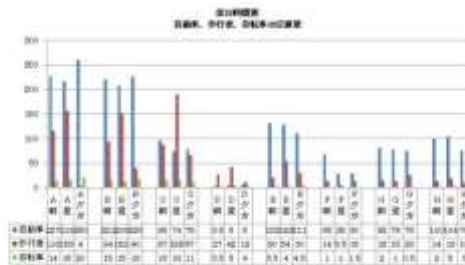
19

交通量調査02



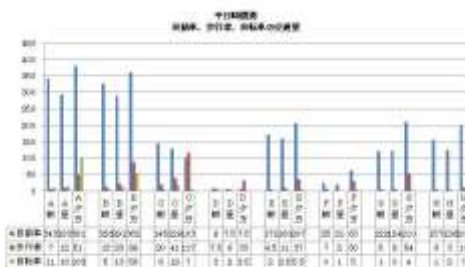
26

交通量調査03



27

交通量調査04



28

柏原の拠点を結ぶ赤い色の道路に通過交通が多い



29

提案

30

KAIBARA MEETS CULTURE

- 「文化的なまち」として柏原の中心市街地をさらに魅力のある地域にする。
- 柏原の景観を生かす
- 駐車スペースを利用し、立ち寄りやすい場所をつくる。
- 集客施設として人の流れをつくる

31

紐絵アート



26

長屋門



27

紐絵アート



28

紐絵アート実施にあたって

- ブースを出店し紐絵を作るイベント開催
- 翌月のハビネスマーケットで実際に設置
- 学生が設置回収

29

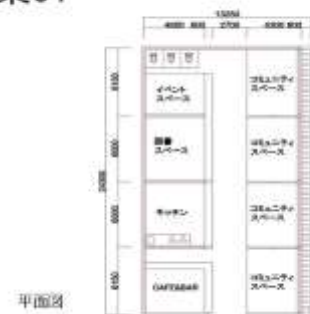
長屋門



30

デザイン案01

- CAFE&BARスペース
- キッチンスペース
- 図書スペース
- イベントスペース (フリースペース)
- コミュニティスペース (くつろぎの空間)



平面図

31

デザイン案02



CAFÉ&BAR SPACE



- カフェのデザートは柏原のスイーツを販売
- バームクーヘン、ケーキなど
⇒柏原の広報的役割
- 柏原の中心市街地には居酒屋などがあまりない
⇒地元住民の交流の場としても期待できる

KITCHEN SPACE



- ハピネスマーケット時の特別出店場所とする
- 普段は地域の人が使用可能
- ⇒地域間の交流が活発化
- 地元の野菜を使った食イベントなど

BOOK SPACE



- 柏原の電車の本数・・・かなり少ない
⇒特に学生たちが待ち時間留まれる場所がない
- 手軽な図書館のようなものを作る
⇒気軽に利用できるような空間を提供
- 危険なカーブでの学生の迎え待ちの問題
⇒自治会館の駐車場をロータリー化し、施設で待つことで危険を取り除く

FREE SPACE



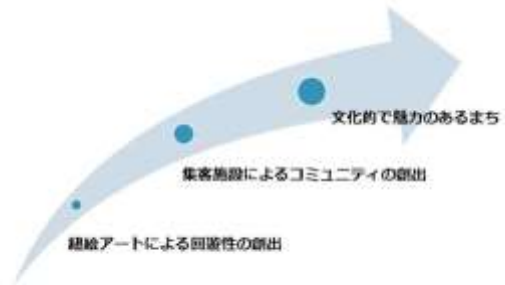
- イベント時に使用
- ゲストハウスとしての使用も可能・・・
⇒柏原に留まる手段として
- 様々な活動の拠点として

RELAXING SPACE



- 畳でゆったりと
- 読書もカフェ・バーの飲食場所
- 襖で空間を区切っている
⇒自由に大きさを変更可能
- 緑州・庭園を設置

展望



11

ご静聴ありがとうございました

12

(2) 関西学院大学法学部 4 回

関西学院大学法学部山下ゼミと申します。よろしくお願ひします。まず簡単に私たちのゼミを紹介したいと思ひます。

関西学院大学法学部 4 回生のゼミは全員で 8 名おります。今日は 3 名しか来れていないのですが、普段は 8 人で活動しております。丹波市柏原町の地域活性化をゼミの研究テーマとして、実際に柏原に足を運んで現状を見つめながら、活性化をどういふ道筋でやっていけばいいのかということを考えて様々な提案をすることを活動内容としております。主な活動としては、月に 1 回ペースでフィールドワークを行い、毎週 1 回のゼミの時間にフィールドワークでどういふことをしていこうとこれからのビジョンを話し合っています。これは学校の写真です。時計台の前で撮ったものです。活動内容ですが、この右上の写真が尼崎の商工会で、3 回生の時に勉強会をさせてもらいました。伊丹市とか兵庫県庁にも訪問しています。左下は柏原の関学スタジオで勉強会をしている時の写真です。懇談会も開催しています。柏原で行われるイベントにも参加させてもらっていて、夏祭りであったり織田祭りであったりとか、先ほどのスライドにもありました他の市町村の活性化について学んだり、去年の夏に仮装盆踊り大会というのがありまして、これはゼミ単位で参加させてもらった時の写真です。その際カフェでヒアリングなどをさせてもらいました。これは関学のスタジオの前で看板を出しているところで、右下は私です。織田祭りに鎧を着させてもらって参加させていただきました。これがちょうど 1 年前くらいのことだったと思ひます。それでは柏原とはどんなところかについて紹介させていただきます。

人口等については先ほど紹介していただいたので、私たちは柏原の観光地みたいところを紹介させていただこうと思ひます。まず上の柏原駅です。柏原の駅舎は独特な形をしていて、非常に趣のある建物だなと思われた方がいらっしやると思ひますが、1990 年に大阪鶴見緑地で開かれた国際花と緑の博覧会ドリームエクスプレス山の駅という駅舎を移築したもので、鉄道ファンの方にはたまらないものだったりするらしいです。右下が柏原町内の様子です。おそらく駅からここに来るまで通って来られたと思ひますが、街路整備事業により城下町をコンセプトとした街路美装化というのが行われておりまして、歩道は自然石、歩車道は雑色アスファルトを使い、城下町の趣ある町並みになっております。町中を通ると分かると思ひるので、また注意して見てください。観光地ではないのですが藁葺き屋根のお家とか色々ありまして、少し周りを見ていただくと地元にはないようなものがたくさんあると思ひます。こちらは陣屋跡というところで 1714 年に作られ、1820 年に再建されました。現在は 5 分の 1 ほど残っている国指定の史跡となっています。門から中を見ていただくだけでも「すごいな」といふふうになりますので、まち歩きの際に見てもらえたらと思ひます。右下が織田家の廟所となっておりまして、ここは少し遠いので今日は行けないかもしれませんが、織田家の墓が色々あります。これが新旧太鼓やぐらです。新太鼓やぐらの方は駅の近くにあり、中に武者人形が入っておりまして、タイミングが良ければ太鼓を打つ姿がご覧になれます。私たちも 1 度しか見たことないのですが。旧太鼓やぐらが駅からこちらに来る途中にあるのでまた回ってもらえたらと思ひます。3 階建てで最上階に土太鼓という大太鼓が吊っておりまして、頼めば中に入れてもらえるようですので是非入ってみてください。これが木の根橋です。柏原町で観光名所はどこですかと尋ねると大体ここが出てくる県の天然記念物となっています。これも色々な角度から見ると面白いですので、後でじっくり見てみてください。こちらが八幡神社です。日本三大厄除け神社となっておりまして、先ほど紹介していただいていた厄除け際というのが 2 月に行われます。こちらにはお寺の中に三重の塔があつて、神仏集合を表している独特なお寺となっていますので、境内までが階段で 140 段ときつめになっていますが、後で時間があれば上ってみてください。

私たちが今までどんな活動をしてきたかと言ひますと、去年まち歩きさせていただいたまとめとして、こちら「柏原の本」といふものを作らせていただきました。柏原町内にあるお店に取材させていただいて、ターゲットとしては柏原の町内に住んでいる方としております。もう一度柏原を見直していただいて、「こうだったのか、柏原」と思ひていただけるような内容にしております。柏原のお店だけでなく、経営する人たちにも注目してほしくて、そのような詳しいイ

インタビューも載せております。これを観光案内所ですとか各店舗に置かせていただいています。先ほども置いてからどうだったかというお話を伺いに行ったのですが、すぐに無くなったということで、手に取っていただけたのであれば良かったなというふうに思っております。中身がお店を紹介するだけではなく私たちもゼミの活動をしているという宣伝を最後にさせてもらい、あと全体像を柏原のお店だけでなく全体を歩いていただけるように MAP もつけております。これがお店の実際の紙面ですが、行きしなにあった大判焼き屋さんですとか喫茶店とか、三光堂さんっていう雑貨屋さんとか柏原の中には非常にたくさん個性的なお店があるので、まち歩きでは回りきれないと思いますが、是非改めて足を運んでいただいて、ご飯を食べていただいて、楽しんでいただけたらなというふうに思います。今までの活動といたしましては、柏原はたくさんのお店街があるところなのですが、その商店街のイベントとして今 100 円商店街というイベントが行われております。100 円商店街というのは、参加しているお店さんが 100 円で商品を出して、それをきっかけとして今後もお客さんに足を運んでいただこうというイベントです。その 100 円商店街を各地で行っているのですが、柏原ではどのような形で行われているのか、客足はどうか、そしてそれをより良くしていくにはどうしたらいいかということを考えながら見学、ヒアリングをさせていただいたりですとか、100 円商店街の実行委員の方と懇談会をさせていただきました。それは昨年と今年前半の活動なのですが、後半の活動といたしましては柏原町内を内向きに見ていったのではなく、外からの人にも来てほしい、観光客を呼びたいということでまた新しい提案を考えております。柏原は織田家のゆかりの地でございます。歴史というのは今まで作られてきたもので、欲しいからといって買えるものではないので、柏原でしかできないことだと思い、歴史に絡めた提案を行っています。最近行った提案としては、まず柏原には商店街があるのですが、商店街の目につくところに旗があります。今チータンが描かれたパステル調の旗が吊されていますが、その旗もだいぶ時間が経過していて、色あせて目立たなくなっていることと、城下町の景観を大切にしているので、その景観を踏まえたものにしたらいいいのではないかとということで、新たにゆるキャラのチータンをモチーフにして鎧、兜を被ったチータンの旗を提案させてもらい、今作っていただいています。また、先ほども紹介がありました、織田家のゆかりがあるところですので織田祭りがありまして、ここにはたくさん鎧があります。武者行列といって観光客の方々もたくさん鎧を着てまちを練り歩くというイベントがあるのですが、その鎧を活かして観光客を呼べるのではないかとということで現在提案中です。

以上となっております。私たちまち歩きだけはたくさんしておりますので、まちのことにに関してまち歩きの時に聞いていただけたらなと思っております。ご静聴ありがとうございました。

《関西学院大学法学部4回 発表資料》



←柏原駅 駅舎

柏原町内の様子。
街路美化により
趣のある風景。↓

町内にはこんな蕎麦屋
根のおうちも！！↓

←1714年に造られ、
1820年再建。現在は5
分の1程が残っている。
国指定の史跡、県指定
の文化財。

織田家墓所。織田信休から→
9代藩主信良までの歴代藩主
とその一族の墓。

←新・太鼓やぐら
時の太鼓橋と言 われからく
り時計になっており武者人形
が中の太鼓を打つ。

旧・太鼓やぐら
3階建て、最上層に「つつじ太
鼓」という大太鼓がつるしてあ
る。↓

↑木の根瘤。柏原町のメイン。→
県の天然記念物。

境内まで続く
180段の階段。
↓

↑八幡神社。日本三大厄除け神社。
豊臣秀吉が天正10年に再建した
ものが現存。

←2013年度作成し
た「かいばらのほ
ん」。柏原町内
の方々に向けて、同学
生独自の目録で作成
した柏原町のお店の
紹介やゼミ生の紹介、
柏原MAPなど掲載。
表紙部分。

関学生が柏原の魅力に迫る！

かいばらの
ほん



(3) 関西学院大学法学部 3 回

続きまして、山下ゼミ 3 回生の活動報告をさせていただきます。今年度の活動内容は夏祭りへの参加、柏原の子供たちの郷土愛を育む活動、柏原の飲食店を紹介する冊子の作成の 3 つとなっております。

初めに夏祭りの活動について説明させていただきます。8 月 13 日に開催された「ふるさと柏原夏祭り」に参加しました。準備のために前日の 12 日から現地入りをして準備をし、後片付け等を行うために 14 日までの計 3 日間柏原に滞在しました。夏祭りの参加目的は山下ゼミの活動を知ってもらうこと、地域の方との交流を通して信頼関係を深めること、ヒアリング調査を通して山下ゼミの知名度を調査することの 3 つでした。当日はここ古市場公民館を開放してクーラーの効いた休憩所とし、かき氷の提供を行いました。また、ゼミの活動を紹介したパネルを展示しました。写真の奥に見えるストラックアウトと輪投げは私たちが自作したもので、これで子供たちを楽しんでもらいました。次にこれはビンゴ大会の様子と仮装盆踊り大会の様子です。どちらも地域の方々と一体となり、交流を深めることができました。ヒアリング調査ですが、目的は山下ゼミの知名度を調べる、夏祭りの参加者の柏原への思いを知ることでした。こちらがヒアリング調査結果の一部です。「交通の便が悪い」や「商店街が寂れている」などの声がありました。参加して得られた成果ですが、当初設定した目的を達成できたと思っております。こちらがアンケートの結果ですが、知らないと回答した人が多くっており、もう少し柏原の知名度を上げないといけないと思っております。

続いて子供達の郷土愛を育む活動について発表させていただきます。我々が子供を対象とした背景といたしましては、初めて柏原を訪れた時にまず子供の姿が見当たらないということと、あとは暮らしぶり、生活ぶりが気になりました。そして同時にまち歩きを行った際に、子供達の遊ぶ場所や集まって話す場所、そういう場所が少ないのかなという点が気になりました。これらの理由によって子供達がのびのびと過ごせるアイデアの提供を行うために、これまでインタビューやアンケート等を実施してきました。その例として 10 月 25 日に柏原町の柏原で小学生の子供を持つ親を対象にした子供の将来に対する考えを聞くためのアンケートを実施しました。こちらにアンケートを回収した結果を挙げています。設問 1 として「現在の柏原は子供の教育に適していますか？」という設問に対して 80%の方が適しているというお答えを頂きました。しかし、その中にも適していないという答えがあり、この理由としましては、「少し塾が少ない」という声も頂きました。そして次の設問の 3 と 4 につきましては、こちら両方とも「進学と就職に際しては場所を柏原にするのかどうか？」というアンケートに対して、こちらも 70%のほとんどの方々が就職も進学も柏原でということを望まれている声が多くなっていました。そして設問 5 を見ていただいて「現在の柏原にあればいいと思う施設」という設問に対しまして、病院、子供が遊べる施設、大きな公園、病院の中ですと小児科、そういうものがもう少し欲しいという答えが多く集まりました。そして最後に設問 8 としまして、「子ども教育の充実が地域活性化につながるか？」という設問に対しても、こちらも 80%の多くの方々に「つながる」という回答を頂きました。これらの回答を持ちまして、僕たちのこれからの子供たちの郷土愛を育む活動につなげていこうと思っております。

続いて柏原の飲食店を紹介する冊子を作る活動について説明したいと思います。なぜ飲食店を紹介する冊子が必要なのかと言いますと、柏原には丹波篠山地域の食材を使用し、こだわりを持って料理を提供しているお店が幾つもあります。中には雑誌やテレビで紹介されているお店もあるのですが、それらを柏原地域だけでなく、丹波市内や篠山市内の方にも知ってもらい、そのパンフレットを読んで柏原を訪れてもらうことを目指しています。素材への熱いこだわりについて取材させていただいたことについて、簡単に説明させていただきます。「田舎家」では大阪の市場からの新鮮な魚介類を使用していて、地元の野菜、また旬の食材にこだわっています。「オルモ」ではスローフードという概念を基に、柏原の丹波牛や丹波地鶏、イベリコ豚を使用しており、野菜も地元の農家で採れた野菜を使用しています。「無鹿」では、鹿肉は丹波で採れた天然の鹿肉を使用しており、これをメインの売りとして、極上の素材を活かす調理をしています。「山の駅」では丹波唯一である最後の養豚農家の丹波ポークを使用している豚井やとんかつを売りにしております。この冊子の特徴としては、まず一つ目として、柏原地域についてや創業の経緯を店主へインタビューし、それを掲

載しているところです。二つ目は、柏原のお店は丹波篠山地域の食材を活かしている料理が多いので、それぞれのお店の素材に対するこだわりを取り上げているということです。三つ目は、私たち学生目線での魅力を紹介することで、若者世帯の方から高齢者の方まで幅広い世代の方に見てもらおうということです。冊子は現在作成中であり、それぞれのお店の取材を重ねているところです。掲載の店数はおよそ10店舗弱を予定しており、2月末までに完成することを目標としています。

これで山下ゼミの3回生の発表を終わります。ご静聴ありがとうございました。

山下ゼミ3回生活動報告



今年度の活動内容

- 1 「ふるさと柏原夏祭りへの参加」
- 2 柏原に住んでいる子供たちに柏原に対する満足度を高め、郷土愛を育む活動
- 3 柏原の飲食店を紹介する冊子の作成

1 夏祭りの参加について



8月13日 ふるさと柏原夏祭りに参加
休憩所に掲げた看板と遊具の作成

夏祭り参加の目的

公民館に山下ゼミの活動を紹介するパネルを展示し、夏祭り参加者にゼミの活動を知ってもらうこと

仮装盆踊り大会への参加、ビンゴ大会の司会を務めることによって夏祭りに活気をもたらし、より一層地域の方々と信頼関係をふかめること

参加者の方々と直接会話して山下ゼミの知名度の調査

夏祭りへの参加

古市場公民館にて夏祭り参加者にかき水、休憩所を提供、ゼミ活動を紹介したパネル展示



休憩所には70人～100人程の方が来てくれて大変好評でした

夏祭りへの参加

ビンゴ大会の司会
仮装盆踊り大会への参加
ヒアリング調査



地域の方々も盛り上げてくださり、会場が一体となりました！

ヒアリング調査の目的

山下ゼミの活動がどれほど地域の方々に
認知されているか調べる

人がたくさん集まる夏祭りの場を利用して
夏祭り参加者の方々が柏原についてど
のような思いを抱いているか知る

ヒアリング調査

香川県在住の30代の夫婦

旦那さんの親戚が柏原に住んでいらっしゃるようで、この日は僻省でいらっ
しゃったようだ。奥さんの方は柏原に来るのは初めてのようで、とても柏
原の雰囲気を感じ入っておられました。山下ゼミの活動を知っているかと
尋ねると二人とも知らなかったようで、今日初めて知ったそうです。私達
の活動の展示を見られての感想は街の活性化のために頑張っていてす
ごい、これからも頑張してほしいとのことでした。

お孫さんを連れて60代の女性

柏原での私達の活動、スタジオの場所などを知っておられたが、どのような
活動をしているかを詳しく知っていなかった。柏原の良い所を聞いてみる
と、昔ながらの街並みと歴史ある建物がある点を挙げられました。逆に柏
原の悪い点、改善点を聞いてみると、**交通の便が悪い点と商店街がさび
れている点**を挙げられました。私達の活動を聞いてみると、子供の遊
べるものがあり、かき氷ももらえてすごく良いと言ってもらえた。

(一部抜粋)

夏祭りの活動を通して得られた成果

夏祭り参加者にゼミを知ってもらうことができた。

ヒアリング調査や仮装盆踊り大会への参加、ビンゴ大会
の司会を務めることによって夏祭り参加者や地元の方
と触れ合うことができた。



2 子供たちの郷土愛を育む活動について



「子供」を対象とした背景

- ・第一回FWで子供の姿が見当たらず、子供たちの日々
の暮らしが気になった。
- ・町歩きをして、子供の遊び場や集う場所が少ないのが
気になった。



子供たちがのびのび過ごせるアイデアの提供

1)小学生の子供を持つ親を対象にした子供の
将来に対する考えを聞くためのアンケートの実
施

日時: 10月25日
調査場所: 柏原町柏原

10月25日フィールドワーク 子ども教育についてのアンケート 結果

アンケート対象：女性 30代 6人・40代 8人 計14人
男性 30代 3人・40代 3人 計 6人

Q1. 現在の柏原町は子どもの教育に適していますか。

1. とても適している 3人	15%
2. まあまあ適している 16人	80%
3. あまり適していない 1人	5%
4. 適していない 0人	

Q2. Q1で3、4に○をつけた方に質問です。なぜですか。

A. 塾が少ない(女性)

Q3. 子どもの進学について、柏原町内で考えていますか。またその理由は？

1. 柏原町内で 14人	70%
2. 柏原町外で 5人	25%
3. どちらでも良い 1人	5%

A. 一1. 柏原高校の生徒の感じが良いから。近いから。中高までは公立でよい。

Q4. 子供が就職する際、柏原町に帰ってきて欲しいと思いますか。

1. 是非帰ってきて欲しい 1人	5%
2. まあ帰ってきて欲しい 14人	70%
3. あまりかえって欲しくない 4人	20%
4. 帰って欲しくない 0人	
5. 未回答 1人	5%

Q5. 現在の柏原町にあればいいと思う施設はありますか。

A. 病院、子供と遊べる施設、大きな公園、小児科、町中に総合病院が欲しい、スポーツ施設、図書館(4人回答)

Q6. お子さんと学校の話はよくされますか。

1. よくする 10人	50%
2. まあする 6人	30%
3. あまりしない 3人	15%
4. しない 1人	5%

Q7. 保護者間で子供の教育の話はしますか。

1. よくする 6人	25%
2. まあする 10人	50%
3. あまりしない 4人	20%
4. しない 1人	5%

Q8. 子供教育の充実が地域の活性化に繋がると思いますか。

1. はい 16人	80%
2. いいえ 4人	20%

3 柏原の飲食店を紹介する冊子を作る活動について



7月、10月、11月に柏原のお店に出向いて取材活動を行った

なぜ飲食店を紹介する冊子が必要なのか？

柏原には多彩な飲食店があり、それぞれのお店に独自のこだわりがある。それらを丹波市内の方や篠山市などの方に知ってもらえる冊子を作れば、柏原を訪れる人も増えて活性化に繋がるのではないか。



素材への熱いこだわりとは



「田舎屋」
大阪の市場からの新鮮な魚介類！
地元の野菜！
旬の食材にこだわっています！



「オルモ」
柏原肥育の丹波牛や丹波地鶏、イベリコ豚も！
野菜は地元の農家で取れたうまい野菜です！

素材への熱いこだわりとは



「無鹿」

鹿肉は丹波でとれた天然の鹿肉！
極上の素材を生かす調理！

「山の駅」

丹波唯一の最後の養豚農家の丹波ポークで作られる豚丼、豚カツ！
これはうまい！！

冊子は現在作成中！

- ・店主へのインタビューを掲載
- ・それぞれのお店の素材に対するこだわりを取り上げる
- ・学生目線から見たお店の魅力を紹介

いっしょにがんばりましょう

おわり

ありがとうございました

(4) 里山プロモーションチーム

お世話になります。私が里山プロモーションチームの衛藤と申します。お隣が柳瀬君、黄さんです。まず初めに私衛藤を中心に活動の内容を報告させていただき、その後柳瀬君に替わりまして、後半我々が作成しました地域の魅力を伝える映像の一部をご紹介させていただきたいと思います。それではよろしく願いいたします。

我々里山プロモーションチームは京都大学農学研究科の農村計画学研究室のメンバーが母体となって活動しております。我々の研究室は桑原集落に腰掛け10年ぐらいお世話になっておりますが、その関わり方は年に1、2回程度です。大学3年生を講義、ワークショップに連れて行って、そこで1日地域の課題についてワークショップを行うといった関わり方をずっと行ってきました。ただ、実際地域のことをよく知らないというところで、年に1回2回ですと、全体を通してその全部のどの時期にどんなことをやっているのだとか、あと地域のお祭りとかそういう行事に全然参加できていないというところが引っかかりとしてあり、そのあたりにもう少し深く地域に関わる中でその地域の魅力を感じて、それを映像として作りたいと考えました。今回このような機会を得ることができましたので、私たちの活動内容について報告させていただきます。まず簡単に活動内容の紹介、趣旨ですとか、どのようなことをしようとしているのかといったことを発表、説明させてもらいまして、その後実際に活動スケジュールとして、実際6月、7月頃から今までどういったことをやってきたのかというのを紹介させてもらって、その後3つ目として、活動の中で作っていた映像を紹介させていただくという報告の順番で説明させていただきます。我々の目指しているところは、学生と住民の共同で映像作りを行うところが主題となっております。地域の魅力を発見すると、実際そういったところで感じたものを記録する、そしてそれを共有させてもらう。それは例えばYOUTUBEのようなもので外部向けに発信するようなことですか、地域内で上映会を実施して共有するという、それら全てを含めて共有としておりますが、そういった魅力の再発見、共有といったプロセスを通じて地域の愛着ですとか関心、そういったものの向上を狙っていこうというのが趣旨としてございます。地域の魅力といっても様々あるのですが、その中で我々は地域に住む人が行っているものに関する魅力を中心に記録していこうということで、実際に地域活動、お祭りですとか桑原では炭焼きといったことをずっと伝統的にされているので、そういった活動に参加して地域の魅力を感じ、そうした体験した魅力を映像として記録していくということを行って参りました。

先ほど簡単に説明させてもらいましたが、取材インタビューといった形で、地域の方に「住んでいていいところはなんですか？」であるとか、Iターンで来られた方に「どういう経緯で戻ってきたのですか？」といったことについて聞かせてもらい、映像にまとめていきます。今回最後にご紹介いたします映像は、この取材インタビューをまとめたものになっております。こちらの写真は夏祭りと右側が秋祭りです。地域でお祭りを主に担っている親睦団体があるのですが、そこの方々と協力させてもらって当日から準備までお手伝い参加をさせていただきました。活動スケジュールとしては、夏祭りの準備が7月の末、その後8月23日夏祭り本番、そしてその後が9月の終わりに秋祭りの準備、10月中頃本番、それで11月が炭焼きと、大体月に1度くらいのペースでイベントの時にお邪魔させてもらい、体験して、それを映像にしていくということを行って参りました。この後、柳瀬君の方から実際に今回活動した中の映像を紹介させていただきます。

よろしくお願ひします。映像をどんなところで取っているのかということ写真で紹介させていただきたいと思ひます。これが秋祭りの様子です。こういった形で祭りのお手伝いを祭り前日からさせていただきました。これは神輿の金具をみんなで磨いているところです。この日学部生から博士課程まで含めて6人程度参加させていただきました。これは大きな山車を組み立てるところから山車を磨いて、飾り付けをして、引っ張ってくるというところで、また、私たち学生みたいな若い人が入ってくると他の人も入ってきやすくなるようで、この人たちはブラジル人ですが、突然乱入してきて、わーっと色めき立って、地域のおじさんたちがにやけているという場面です。そんな神輿や山車が4台、各地区から4台集まってきて、こういう祭りの境内でかなり重いのですが、担がせていただきました。これは桑原の秋の幸

を少し頂いてきたので、それをお酒であつたりとか、皆さん色々な形で食べていると思いますが、丹波の黒豆の枝豆であつたりだとか、そのほか収穫したてのお米を頂いたり、少し買わせていただいたものを食べりだとかしました。これは地域の方々の休み時間の写真です。地域活動に色々な形で参加させていただきながら、その合間合間で記録の映像と、そしてインタビューとして地域の方々にどんなところがこの地域で好きなのか、これまで住んできてここがいいなと思うところ、こんな人に来て欲しいと思うところなどについて聞かせていただきました。今回見ていただく映像は主に映像のカットです。編集のところは黄さんが初めて行いました。

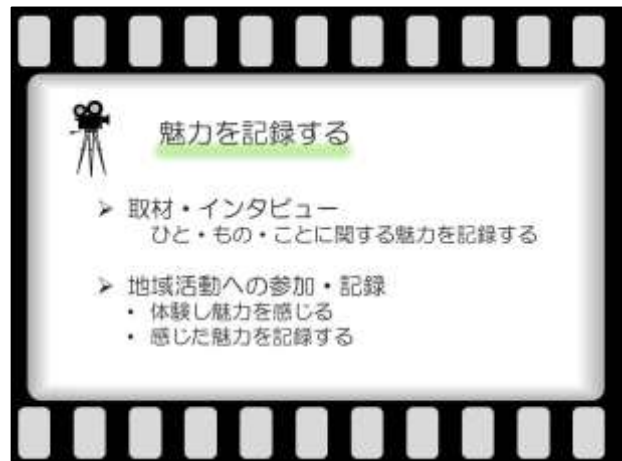
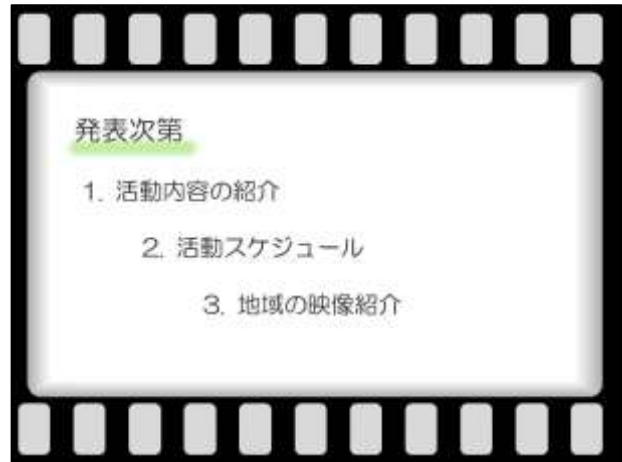
柳瀬君はずっとこういうことをやっていたので私はこの機会にちょっと勉強させていただきますという感じで参加しました。よろしくお願いします。

まだこれは未公開でこれから地域の方に見せるのですが、学生が地域に入ってインタビューでお話を聞かせていただいて、じゃあそういうところでどんな映像が撮れるのか、それを研究してというのがどんな形で出来るのかという1つの例として、ひとまず今回作らせていただきましたので見ていただきたいと思います。

〈ビデオ放映〉

これが里山プロモーションチームにとって初めての取材の映像であるため、音声が悪かったりだとか色々あるのですが、でも実際に作成してみたらそれほど時間も掛からず、ひとまず見られないものではありません。そして何よりも、地域のおっちゃん同士だとあまりこのような話をしないと思いますし、なかなかそこまでって出来ないと思いますけれども、カメラを片手にインタビューさせていただくという形にすることによって、実はそのIターンUターンという形でここに来て、そこにどんなかたちで生活しているか。あるいはこんな人が来て欲しいなとか、そういう形のものが撮れるかもしれないと思ったことが、僕らにとって一つ大きな学びだったかなと思います。実はこの桑原集落は車でないと行けなくて大変だったのですが、外に向けて行われている蛍祭りであるとか、きれいな夜桜といった人が集まるイベントが撮影時の夏、秋と全然なかったのが、是非来年度はそうしたところも撮らせていただいて、こうした映像が里山のプロモーションであるとか、人に来てもらうというところにもつなげられたら面白いと考えております。この映像の作り方であるとか、どのように編集したのかそんなに難しいことではないので、もし知りたいなという方がいらっしゃいましたらこの後お声掛けいただいたら嬉しいなと思います。

今回インタビューの部分を中心に映像のご紹介をさせていただきましたが、今後お祭りの様子なども同様にこういった形で映像にしまして、今後ご紹介できればと考えておりますので、そのあたりもご関心がございましたら、ご案内させていただきますと考えております。お時間頂戴しました。以上でございます。どうもありがとうございました。



活動内容（地域活動への参加・記録）



活動スケジュール

平成27年

内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
打ち合わせ ワーク ショップ		打ち合せ・ 協議	ワーク ショップ						
調査制作		7月 8月2日 - 9月 10月 11月10日 夏祭り・秋祭り 水祭り 炭火祭							
					編集・加工				公開

(5) ささやまファン倶楽部

「ささやまファン倶楽部」の菅原といいます。よろしくお願ひします。まず最初に、「ささやまファン倶楽部」ですが、これまで発表された関西学院大学や京都大学と異なる点はサークルだということです。本当だったら普通のどんなサークルでも2回生とか3回生が中心だと思うのですが、その子たちは今ちょうど真南条上というところで黒豆の選別のお手伝いをしていますので、私は4回生でほとんど行ってないのですが発表させていただきます。サークルですので、色々な学部の人が集まって活動しています。私は経済学部です。他にも今日は理学部のメンバーとか、農学部であるとか、工学部、経営学部と様々な学部のメンバーがいます。個人的にはこの「ささやまファン倶楽部」の他にも篠山で色々な活動をしていまして、3時55分からの第2部のディスカッションで長井さんから説明があるかと思いますが、私はこの4月から篠山に住んで地域おこし協力隊というところで活動しています。「篠山ファン倶楽部」の活動の紹介なのですが、少しそれ以外の目線も入っているかもしれません。どんなことをしているかという具体的な部分について進んでいきたいと思ひます。活動地域は真南条上集落というところですが、篠山の中でもちょうど真中あたりにあるのですが、先ほどの桑原集落よりはどちらかと言うともっとこじんまりとした集落です。小さい集落なのですが、小さい分固まって集落の方皆さんで真南条上営農組合という組合を作って、皆さんで集落営農をされています。そんなところで農作業のボランティアであったり、あるいは里山の整備であったりビオトープの整備などを行っています。いま写真が出ているのは、神戸大学の方で直売所というのがあるのですが、篠山で活動しているサークルの人が自分で作った農作物であるとか、これは神戸大と真南条上営農組合が共同開発した丹波の赤ジャガを使ったアイスなのですが、こういったものを販売するといった活動をしております。今年特に手を入れたのがこの活動で、神戸大学の学園祭、徹夜祭と言うのですが、これで集落の女性の方と一緒に真南条御膳というのを開発して販売しました。これで確か500円だったと思ひます。せっかく神戸までその女性の方に来ていただいて販売したのですが、とても安かったためあまり利益が出なくて申し訳なかったなと思ひています。こんな風に一緒に調理をして、これは教室の中なのですが、販売したりしました。他に先ほどの活動紹介の中でイベントへの参加というのがあったと思ひますが、これは集落の敬老会に参加して出し物をしてきた時の様子です。このようにステージで歌ってる人がいますが、この二人は実は、ささやまファン倶楽部で2010年から活動しているのですが、既に大学を卒業された社会人の方です。社会人になってもこうやって来てくださったというのは、私にとっても大変嬉しかったですし、地域の方にとっても良かったと思ひています。ここまで簡単に活動の報告をさせていただきましたが、少し内面の部分についても考えてきました。

「若い力で元気な丹波を」という今回のフォーラムのサブタイトルがあったと思ひますが、私たちがなぜサークルという形で自主的に篠山に通うのかというのを考えてみました。当たり前なのですが、色々なことを考えている人がいます。「地域に貢献したい」という思いを持った人もいますし、「単純に里山整備がしたいんだ」という人もいます。それ以外に、「友達と一緒に泊まって合宿して色々ワイワイするのが楽しいよね」という人もいますし、「農村の風景を見てリフレッシュしたい」という、そんな人もいます。当たり前なのですが色々あって、よく地域に貢献したいっていうところに重点が置かれがちなのですが、サークルとして他のところ、いろんなメンバーがいるというところを踏まえて活動していきたいということを私たちは考えています。

最後に今後の方向性ということで、「それぞれの立場で地域を思う」というように書いています。私たち現役の学生は大体月に1回ぐらいのペースで行くのですが、今回卒業された方が2年ぶりに敬老会に来られました。そのような形であまり無理をせずにそれぞれの立場で、都会に住んでいて就職して東京に行ってしまうと地域のお米を買うとか、なんでもいいと思ひのですが、それぞれの立場で出来ることをすればいいのではないかと考えています。今後サークルとして引き続いて大切にしたいことはやはり楽しさかなと思ひています。地域のためとか活動の成果とか言われるのですが、もちろんそれを考えないわけではないですけど、楽しさというものがなければどんどんしんどくなっていったら活動も続かないし、いい活動もできないのではないかと考えていまして、いい意味での義務感とか責任感という

ものがすごく大事で、それを持っている人というのはすばらしくて、尊いものだと思いますが、いい意味で適当に楽しく続けていけたらいいかなと思っています。最後に「人付き合いとして継続すること」と書いてみました。よくサークルをやっていると、「継続するんですか?」とか、「継続性って大変ですよ、大事ですよ。」ということを言われます。ささやまファン倶楽部も実際年々活動する人数が減っています。人数が減るっていうのは課題だとよく言われるのですが、今回社会人になって、また真南条に戻ってきた方がいます。年に1回なのですが、そんな人がいるように、単に学生が来るというのを継続するのではなくて、誰々さんがまた来たとか、そんな個人単位の人付き合いとして続いたらそれはそれですばらしいことではないかと思っています。当然人付き合いなので、毎週のように顔を合わせる人もいれば、少し一時期遠のくこともあると思います。そんなことがあっても、楽しくいい意味で適当に、人付き合いとして続けていくことができたらいいかなというように考えています。そういう意味で量、学生の人数とか回数とかというよりは、質みたいなものをささやまファン倶楽部としては追求していきたいなと思い、もう4回生で口うるさく文句だけ言うような立場なのですが、そんなことを考えています。

H26丹波地域大学連携フォーラム 活動状況報告

2014.12.13
神戸大学 ささやまファン倶楽部
菅原将太

自己紹介

- 経済学部経済学科 4回
- これまでの活動
 - ささやまファン倶楽部 (2011~)
 - 実践農学入門 (2011), 実践農学 (2013)
 - はたもり (2012~)
 - 篠山市地域おこし協力隊 (2014~)

活動地域

- 篠山市真南条上集落



活動内容

- 大学の直売所・学園祭での農産物の販売
- 里山・ピオトープの整備
- 行事・イベントへの参加





なぜ篠山に通うのか？

- 動機やモチベーションはさまざま
 - 「地域に貢献したい」
 - 「里山に興味がある」
 - 「仲間と活動できるのが楽しい」
 - 「リフレッシュに行きたい」

今後の方向性

- それぞれの立場で地域を想う (= 理念)
- 大切にしたいこと・もの
 - 楽しさ
 - 適当さ
 - 人付き合いとして継続すること

(6) はたもり

先ほど発表があった「ささやまファン倶楽部」の後輩サークルです。神戸大学の「はたもり」の森田といいます。

まず「はたもり」という名前の由来ですが、畑地区を盛り上げようという意味から来ていて、2012年の3月に結成しています。私たちは1回生の時の授業をきっかけにしてサークルができています。私たちは今4年生なのですが、4年前の2011年度に、実践農学入門という授業で畑地区と出会いました。この写真は「田んぼアート」をしている写真です。それぞれ各農家さんのところに弟子入りをして、主に黒豆の栽培のお手伝いをすることがこの授業の内容です。1年間授業として入って、もっと農家さんとずっとつながっていたいとか、また篠山の畑地区に行きたいという有志で「はたもり」を結成しました。2012年度に畑地区の地域のMAPを作りました。また後ほどお話しますが、この畑地区には畑祭りという伝統行事があって、その畑祭りを盛り上げるために手ぬぐいを作ったり、顔出しパネルを作成したりしました。この写真は少し小さいのですが、農家さんが入って楽しく写真を撮ってもらっている写真です。また、この2012年度にこの畑地区は小学校が閉校してしまいました。そこで、この一番下の畑レンジャーというのを結成し、閉校のイベントに出させていただきました。去年の2013年度に縁があって黒豆の栽培の手伝いを1年生2年生がしていたのですが、実際に自分たちで一旦半分の畑で黒豆の栽培から、販売までを行いました。これは先ほどのささやまファン倶楽部も説明していましたが、学校の直売所で黒枝豆を販売している写真です。このような活動を行っている私たち「はたもり」が一番活動の中心としているのが畑祭りです。今日はその畑祭りについて語りたいと思います。

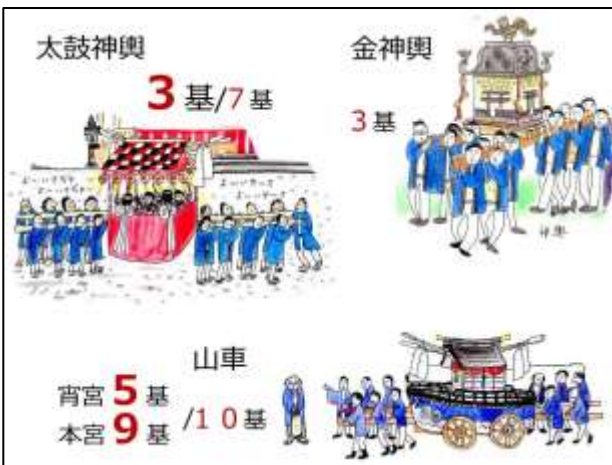
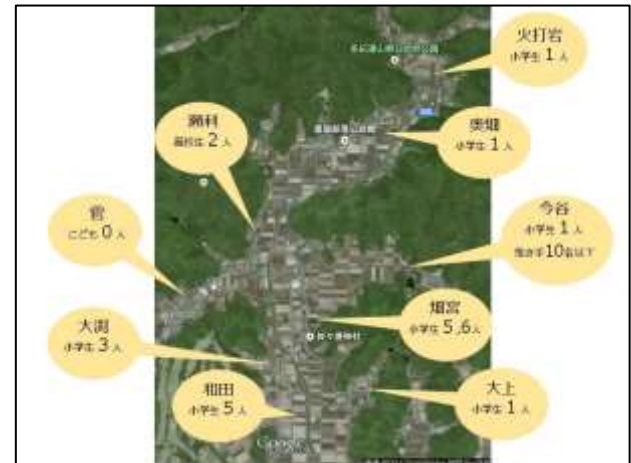
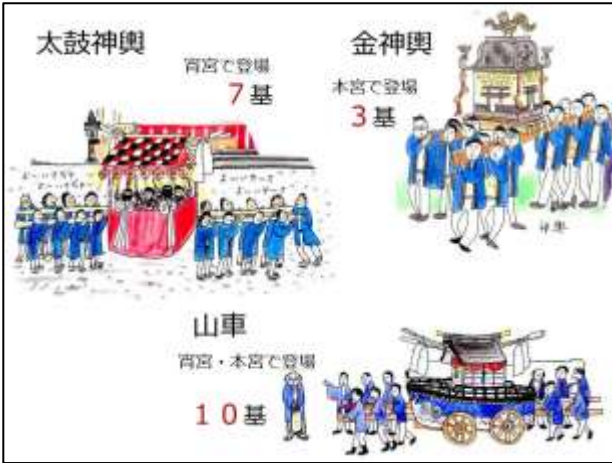
畑祭りとはどんな祭りかということですが、10月の最初の土日に行っている畑地区の伝統行事です。篠山3大祭りの一つになっています。畑宮という集落にある佐々婆神社の祭礼で、古くから農民の願いが込められてきた秋祭りです。1600年代の記録が確認されていますが、さらにもっと昔からあると思われるので、少なくとも400年以上の歴史があるお祭りです。土曜日が宵宮で、日曜日が本宮というふうにお祭りがあるのですが、これは宵宮の写真です。こうやって夕方になると、各集落から山車が集まってきて、参道に並びます。夜になるとこのように提灯に灯りがついて、きれいな景色が並びます。これは本宮の写真です。佐々婆神社の少し離れたところに若宮神社というのがあるのですが、この御神輿に神様が乗って、その若宮神社へのお引越しをして、また佐々婆神社に戻ってくるというお祭りです。これが若宮神社です。このように登っています。この畑祭りには御神輿が太鼓神輿という御神輿と、金神輿という御神輿、また山車というのがあります。太鼓神輿は宵宮で登場して、この一番左のイラストのように子供が乗っているようなものです。全部で畑集落は10集落からなっていますが、全部で7機あります。また、先ほど見ていただいた本宮で登場する金神輿が全部で3機あります。宵宮と本宮に両方登場するのが山車で、これは各集落から1機ずつ全部で10機あります。これが畑地区の全部の集落の写真です。10個集落があるのですが、今実際子供がこのような状況です。火打岩というところは小学生が1人だったり、奥畑は小学生が1人だったりということで、とても子供が少ない状況になっています。このため、左の写真のように、この神輿に子供が乗らないといけないのです。そういう状況なので、今年太鼓神輿は7機あるうちの3機しか出ていません。また、山車は宵宮で半分の5機しか出ていません。私たちは4年目の参加なのですが、これは1番少ない数でした。祭りがこういう状況なので、少しでも何か私たち学生が入ることで祭りを盛り上げられないかということで活動を続けています。1番目は曳き手、担ぎ手として私たち学生が祭りに参加しています。このグラフで、2011年度は授業なので人数が入っていないのですが、緑色が「はたもり」の人数で、2013年度の去年から「はたもり」以外の学生も呼んでみようということで呼んでみました。2014年度、今年が一番多くて50人ぐらいで、初参加の人は主に、「ささやまファン倶楽部」であったり、このフォーラムに出ていた「にしき恋」であったり、色々な篠山の団体呼んでいたり、あと実践農学入門の今年度の人や来たり、留学生が来たり、また「はたもり」のメンバーが来たりしています。これは山車を曳いている様子です。この二人は留学生の方です。今年は留学生が多かった点が特徴的でした。2番目、これは初めての活動だったのですが、その畑祭りに来て神輿を担ぐ人だけではなくて、その畑祭りを見に来て、一緒に盛り上げてくれる人を増やさなければいけないということでポストカードを作

りました。先ほどからスライドにも出ているイラストは、畑地区出身で、今は畑地区ではなく海外に住んでいらっしゃる方なのですが、そのイラストレーターが書いたものを使わせていただきました。「はたもり」から頼んだのではなくて、これはイラストレーターの方から個人で畑祭りのために何かできないかということで描いていたものを、「はたもり」が引用させていただいたという形です。こちら 2000 枚作って大学や六甲周辺のお店や篠山市の色々なところに配布して、少しでも畑祭りに来てもらえないかということで配布しました。最後 3 番目は、祭り市というものが畑祭りにはあるのですが、その祭り市を楽しくしようという活動をしました。これは祭り市の写真です。毎年、これは閉校した小学校の前で行いましたが、少し祭りの中心とは違うような位置でやっていて、農作物や篠山のお菓子を中心に販売しているものだったのですが、先ほど出てきたイラストレーターの方に描いていただいたポストカードを販売したり、また学生が毎年なんとなく入ってきているので、自己紹介ができないかということで、学生の自己紹介コーナーなどを作ったりしました。当日祭り市が少し寂しいものになっているという話だったのですが、結構多くの方が来てくださって、またポストカードも大変好評でした。

このように活動を続けているのですが、なぜ毎年畑祭りに行くのだろうということを今年振り返りました。その畑祭りになぜ行くのかという答えがこれらの写真にあると思い写真を持ってきました。これが畑宮という公民館の写真なのですが、先ほど発表した菅原君が真ん中に写っているのですが、このように子供達に囲まれています。子供達に大学生は人気というか、「じじい」「ばばあ」と呼ばれながら絡まれます。次に、これは参加 2 年目の後輩の女の子です。2 年目なのでまだ経験も浅いかなと思いきや、このように集落の方と楽しい 2 ショットを撮っていたりしました。これは本宮で皆さんとご飯を一緒に食べるのですが、誰が学生かわかりますか？この右の 2 人が学生です。あとこれが一番私の中でお気に入りの写真なのですが、この真ん中に写っているのがこちらの写真に写っている彼です。彼は初めて畑祭りに参加していて、しかも宵宮だけなのですが、このように集落の方と肩を組んでいる写真があります。これはみんなでビールを飲んでいる集合写真なのですが、この矢印のところが学生です。畑祭りの魅力というのが、こうやって学生が地域の中に溶け込めるような祭りであることが私の中ですごい魅力だと思っています。先日、「なんで毎年畑祭りに行くんだろうね」というのをメンバーに聞いてみると、「普段と違う畑地区の雰囲気が好き」だったり、「宵宮の空気が好き」、「地域の方々に絡んでもらえる」、「名前は知らないけど 1 年に 1 回行くことで顔なじみの人がいる」であったり、「はたもりのメンバーがこんなにたくさんいるので揃って楽しい」ということだったり、「そこに祭りがあるから行く」であったり、「なんとなく 10 月最初の土日は予定を空けてしまうよね」ということだったり、「もう畑祭りは自分の習慣になってるよ」という声が「はたもり」のメンバーで非常に多かったです。ただ、私たち「はたもり」のメンバーは 4 年生であるので、卒業であったり、進学だったり、進路はそれぞれです。それでも「来年も参加したい」という声があったり、「院も卒業して完全にみんな社会人になってからも年に 1 回集まる場、同窓会の場に出来ないだろうか」というような声が出ています。その一方で、先ほど 1 番最初の方にスライドを見ていただいたのですが、子供や地域がこのような状況なので、「畑祭りがこれからも続くのだろうか」であったり、「学生団体としてはこれから縮小してしまうのだろうか」「新しい関わり方を考えていく必要があるんじゃないかな」というのが今の現状です。畑祭りは地域の伝統であったり、文化の価値を重視されることが多いのですが、私は 4 年間参加していて、そういう風に全然畑地区とは関係ない学生がそうやって入っても、祭りが習慣になっていて、来年も再来年も行きたいっていう学生がいたり、また畑地区からも出て全然違うところに住んでいた方が何か畑祭りのためにイラストを描いたりとか、そういうところがあるので、畑祭りが人が集まるきっかけを提供している場になっているのではないかと考えています。

最後です。今日集落の方が後ろにいらっしゃっていますが、今年はこうやって学生一人一人にポストカードを作ってくれました。これからもこんな素敵な縁が続いたらいいなと思っています。以上で終わります。ありがとうございました。





祭りを盛り上げるために・・・

**① 曳き手・担ぎ手として
学生の参加**



祭りを盛り上げるために・・・

②見に来る人を増やす

ポストカードで宣伝

◎イラスト
畑地区出身のイラストレーターの方のもの

◎2000枚配布
大学・六甲周辺のお店
篠山市の各所・城北畑小学校
...etc

祭りを盛り上げるために・・・

③祭り市を楽しくする





来年どうする？

ほとんど4回生のはたもりメンバー
 卒業・院進学・進路はそれぞれ。。。

来年も参加したい
 社会人になってからも年に一回集まる場
 = 「同窓会」の場にはできないか

はた祭りはちゃんと続くのだろうか
 学生団体としては縮小していくだろう
 →新しい関わり方を考えていく必要？

はたまりを応援してくれてありがとう
山車を引く大鼓を担ぎ神楽を担ぎ
みつけの里の人々と大いに楽しんでたよ
来年も又ぜひ来てね 待ってまーす



はたまりを盛り上げる会

(7) 学生団体 TMP

こんにちは。ご紹介にあずかりました立命館大学理工学部建築都市デザイン学科2回生の原といいます。こちらから武田一馬、斉藤将太、高松伸也です。では発表させていただきます。

私たちは「TMP」と略していますが、正式名称は「丹波マニファクチャープロジェクト」という団体です。ゼミでもサークルでもなく建築学生有志の団体で、今現在30人で活動しています。丹波市に「悠遊の森」というキャンプ場が柏原駅の後ろにあり、そちらを拠点に活動しています。「丹波を元気付けること」、「地域と学生を結びつけていきたいということ」、「自分たちが学んでいる建築の専門的学問を活かして学びの場をつくること」の3つのコンセプトに、「もの作りを通して繋がる地域のコミュニティ」と理念を掲げて活動しています。なぜ丹波なのかというのは関西学院大学の方も何度か話されていたのですが、丹波市は地域全体で地域活性化をやっているという傾向が強く、あともう1つは高齢化が進んでいる中で若い力、学生を求めている印象を受けたからです。もう1つが、自分たち学生や若い力が取り組みたいという提案を受け入れてくれる場所である点が印象的で、この土地で活動していきたいと思いました。

では、地域を元気づけるために自分たちに何ができるのだろうかと考えたときに、まず丹波市には地域活性化に取り組んでいる団体が多く、他の大学に負けない、私たちだからできるオリジナルの活動として考えついたのがツリーハウスというものです。なぜツリーハウスかということ、丹波市は自然が豊かで、自然の木を活かして建てられる建築物であること、話題性があるって人を集めるのではということが挙げられます。また、ツリーハウスは自由な形ができるので、イベントの施設として使えたり、建築基準法に縛られないので、建築士にならなくても建築学生で自由に作れるということが挙げられます。なにより、子供だけではなく大人も一度は憧れる秘密基地のような空間であるため、とても楽しいものになるのではないかと思います。今年ツリーハウスを実際に丹波悠遊の森に作りました。その時に竹害問題を取り入れました。丹波市は竹林が多く、その竹林の処理の仕方に困っておられたので、ツリーハウスを作る上でそれを取り入れていきたいと思い、材料の一部に竹を使用しました。竹は木と違い2年ぐらいで腐ってしまうためケアが必要です。交換が必要になるので作って終わりではなく、私たちや後輩がまた丹波市に帰ってきて交換しに来た際にイベントを開いたりして、ずっと丹波市と繋がっていけるということで竹を取り入れました。

ツリーハウスはいきなり作ったのではなく、まずは2014年の3月にツリーハウスを作る上で、先にもの作りというコンセプトを掲げて、バーベキューコンロを作りました。そのバーベキューコンロ作成の後、キャンプ場の方と話し合い、設計会議を月1回程度行って、9月にツリーハウス「いろは」を作りました。

私たちがもう1つ掲げているのは、やはり作って終わりではなくて、作った後のイベントとか、そういった人を集める方法も自分たちで考えていきたいと考えています。先月11月に「風の宴」という音楽のイベントがちょうどあった際にそれとコラボさせていただいて、ツリーハウスのまわりをキャンドルと竹の灯籠で明かりを灯すキャンドルナイトイベントを開催させていただきました。ツリーハウス「いろは」の主なコンセプトとして、1つ目はやはりキャンプ場のシンボルとなって人が集まるということ。次に子供たちが安心できる空間にしていきたいということ。また、先ほども言いましたが竹を取り入れることにより、一度きりではなくて長年丹波と関わっていける建築物にしたいということ。さらに、「ほっこりしたい」ということにつながるんですけど、母体をイメージして円形になっております。今後の予定ですが、ツリーハウス「いろは」は現在外の空間で、屋根と階段がありません。階段は簡易なものしかなくて、それが原因か子供があまり登らず利用が少ないので、それを改善するため、今年の春に合宿して屋根と階段の設置を行います。それに伴い完成イベントをその合宿最終日に行うので、それを知ってもらうためにも2月に小学校で竹か木を使ったワークショップを行ってそのツリーハウスの認知度を上げるとともに、もっと人が交流できる空間を作っていきたいと思っています。以上で終わります。

《学生団体 TMP 発表資料》



TMPとは

- ・兵庫県丹波市の地域活性化を目的とした団体
- ・立命館大学の学生で構成され、丹波市のキャンプ場を拠点に活動している
- ・ツリーハウス製作を通じ、地域を盛り上げる

なぜ丹波なのか

- ▶ 丹波は地域活性化を積極的に起こしている地域
- ▶ 丹波は高齢化が進み、学生を求めている
- ▶ 一町全体をおいて、学生をよびこむ活動を行っている
- ▶ 学生のやりたちを応援できる地域である

地域を元気づけるために

- ▶ 丹波ではすでに他大学が地域活性化活動を行っている
- ▶ 一従業員学生だからできる活動とは...
- ▶ 地域活性化の一つのツールとして選んでもいい...

ツリーハウス！！

なぜツリーハウスか？

- ▶ 自然に生えている木を土台にした建築物
- ▶ 活動性がある
- ▶ イベント会場になる
- ▶ 人が集まる空間
- ▶ 建築基準法に縛られない

大人も子供も一度は憧れる秘密基地

地域の問題を取り入れる

- ・竹市問題
- ▶ 竹の活用方法の提案
 - ・竹を利用したツリーハウス
- ↓
- ・アフターケアが必要(消費した竹の交換)
- ↓
- ・地域との繋がり、竹を扱ったキャンプ場

過去の実績

2014年

3月



・BBQコンロ作成

9月



・ツリーハウス「いろは」作成

11月



・キャンドルナイトイベント

ツリーハウス「いろは」の作成

- ・キャンプ場のシンボルとなるもの
- ・ほっこりしたり、安心できる空間
- ・竹を取り入れ、長年かかわっていける建築物
- ・母体をイメージしている



今後の予定

ツリーハウス「いろは」

- ▶ 屋根の作成
- ▶ 階段の取り付け

2015年

2月に
小学校でワークショップ

3月に
屋根階段の設置を行う
同時に完成イベントを行う

